

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2022年（公財）日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項および申し合わせ事項によって行う。

2. 競技場使用について

- (1) ウォームアップ場は、補助競技場を原則とする。砲丸投の練習については、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみとする。
- (2) 練習は、係員の指示によって行う。
- (3) スパイクのピンの長さは、9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。また、スパイクピンの本数は原則として11本以内とする。

3. 招集について

- (1) **招集所は、第2ゲート付近（1500mスタート地点）とする。**
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は次のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始30分前	競技開始20分前
フィールド競技（四種競技、棒高跳以外）	競技開始40分前	競技開始30分前
フィールド競技（四種競技）	競技開始30分前	競技開始20分前
フィールド競技（棒高跳）	競技開始60分前	競技開始50分前

※ 棒高跳は、現地で招集を行う。

- (3) 招集完了時刻に遅れた選手は、棄権となる場合があるので時間を厳守すること。
- (4) **リレーのオーダー用紙は、招集完了1時間前までに招集所へ提出すること。**
オーダー用紙は、招集所で受け取ること。
- (5) 2種目を同時に出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が競技者係に申し出ること。2種目同時に出場する場合は、トラック競技を優先する。
- (6) やむを得ず棄権する場合は、競技者係に申し出る。

4. ゼッケンについて

- (1) ゼッケンは学校名が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- (2) トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの右横やや後方につけること。
- (3) 男子3000mについては、別ナンバーカードを招集所にて受け取り、胸と背につけること。

5. 競技について

- (1) 競技者は、その競技をする以外は、トラックおよびフィールドに立ち入ることができない。
- (2) 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- (3) レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- (4) トラック競技のスタート合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- (5) **各レースの不正スタートは1回目から全て失格とする。**
- (6) 短距離種目では、事故防止のため、フィニッシュ後も自分の割り当てられた走路（曲走路）を走ること。
- (7) トラック競技はすべて写真判定で行う。
- (8) **トラック競技の予選はタイムレースとし、上位8名が決勝に進出することができる。その最下位で同タイム者が出たときは、以下の方法で決定する。**
 - ①判定写真を拡大し、細部（電気計時1/1000秒）まで読み取り、着差判定をする。
 - ②着差がないとき、ハードルを含む400mまでの種目では、レーンに余裕がある場合のみ、決勝進出者を9名とする。
 - ③レーンに余裕がない場合は、監督同席のもと、同タイム者または代理人によって抽選し、決勝進出者を9名決定する。**ただし、男女800mおよび男女4×100mRについてはタイムレース決勝とする。**
- (9) リレー競技のマーカの使用は1カ所とする。使用したマーカはそのチームで処理する。
- (10) 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。走幅跳、三段跳、砲丸投は、試技を3回行い、トップ8決定後さらに3回の試技を行う。
- (11) 三段跳は、踏切板から砂場までの距離を9mとする。

(12) ハードル種目の規格

男子		女子	
高さ	ハードル間	高さ	ハードル間
0.914m	9.14m(水色)	0.762m	8.00m(黒色)

(13) 砲丸の重量

男子	男子中学四種	女子	女子中学四種
5.000 k g	4.000 k g	2.721 k g	2.721 k g

6. 競技場への入退場について

- 種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。
第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技
第2ゲート：1500mおよび棒高跳・投てき競技
第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳
第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技および走幅跳・三段跳
※ 第1コーナー付近からスタートする種目および1500m以外のトラック種目の選手は、荷物を取りに戻る際、メインスタンド下通路を通り、第4ゲート後方の出入口より移動すること。
- フィールド競技の出場者は、係員の指示に従って退場する。

7. 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方について

- 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方は、最後の1人になるまでは次のとおりとする。

		練習	1	2	3	4	5	6	7	
走高跳	男	125	130	135	140	145	150	155	160	以後3cmごと
	女	115	120	125	130	135	140	143	146	以後3cmごと
四種 走高跳	男	120	125	128	131	134	137	140	143	以後3cmごと
	女	110	115	118	121	124	127	130	133	以後3cmごと
棒高跳	男		200	210	220	230	240	250	260	以後10cmごと
	女		160	170	180	190	200	210	220	以後10cmごと

- 第1位決定のために行うバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。

8. 競技用具について

- 競技に使用する器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用の個人所有のポールの検査は、現地で跳躍審判員が行い、合格したものに限り使用が認められる。
- 練習用としても個人の用具を競技場に持ち込んではいない。

9. 表彰について

- 各種目の表彰は1～3位まで行う。
- 総合の表彰は、総合得点順で1～3位の学校に行う。なお、各種目の入賞者の得点は1位8点、2位7点、3位6点、以下、5、4、3、2、1点とする。

10. 雨天練習場について

- 基本的には使用しない。雨の状況により使用する際には以下の点に注意すること。
 - ピストルの使用は禁止とする。
 - 入場は、第2ゲート側の入口より入場する。第3ゲートからの出入りは禁止とする。
 - シートを敷くなどの独占的な使用をしない。
 - ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は、補助競技場で行うこと。
 - ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
 - ハードル、スターティングブロックは使用しない。

11. その他

- 応急処置を要する場合やその他健康上の問題が発生した場合は、正面スタンド下の救護室に連絡すること。
- 記録は大型映像及びアナウンスにて発表する。
- 各種目上位8名、リレー上位4校に県新人大会出場資格を与える。ただし、男女四種競技については県大会を実施しない。